

大正六年六月三日發行

婦人と子ども

第十七卷
第六號

フレールベル會

第十七卷第六號目次

夏の寢床……………	倉橋惣三
布袋讀……………	倉橋惣三
幼稚園教育の要旨……………	和田實
幼稚園出身兒の成績……………	笹野豐美
貧兒保育の話(一)……………	徳永恕子
~~~~~	
音樂の味ひ方……………	田邊尙雄

### 本誌定價

一冊 郵税共金拾參錢 六冊前金郵税共七拾貳錢  
拾二冊同金壹圓四拾四錢 郵券代用 一割増

### 購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

### 本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

庶務及會計に關する御用務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内フレイベル會事務所宛  
本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々木山谷一二四倉橋惣三宛

大正六年六月三日印刷納本  
大正六年六月三日發行

編輯兼發行者 倉橋惣三  
東京府豐多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四番地

印刷者 守岡惣功  
東京市本所區番場町四番地

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場  
東京市本所區番場町四番地

發行所 フレイベル會  
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

## 六月例会

- 一、六月九日(第二土曜日)午後一時半より
  - 一、東京女子高等師範學校附屬幼稚園にて
- 一、講 演

傳染病を媒介する動物

理學博士 谷 津 直 秀 君

○季節柄此の有益なる講演に多數諸君の來聽を希望します。

六 月

フ レ ー ー ベ ル 會

顧問 高島平三郎先生

# コドモ

## 本誌の四大特色

子供繪雜誌は玩具であると同時に教科書であります。お子様方がコドモを御覧になつてゐる間に物事を覚えお行儀がよくなること不思議な位です。

まじめで教育的なこと

繪が叮嚀で美麗なこと

お話が易しく面白いこと

片假名のみで讀易いこと

□ 定價一冊十二錢  
□ 郵 税 五 厘  
□ 六冊郵税共六十九錢  
□ 十二冊一圓三十一錢  
□ 郵税共  
□ 纏て前金の事  
合本定價

各集郵税共五十錢

東京市小石川區  
林町五十七

**コドモ社**

電話番町六一八  
振替東京二七九六三

合本出來

大正三年七月號より  
大正四年三月號まで  
大正四年四月號より  
大正四年六月號まで  
大正四年七月號より  
大正四年十二月號まで  
大正五年一月號より  
大正五年六月號まで

# もど子と人婦

第七十六號

大正六年六月一日

## 夏の寢床

冬は夜なかに眼を覺まし、  
きいろいあかりできもの着る。  
夏は、まつたくあべこべに、  
ひるまの内から寢にやならぬ。

まだ木の上には鳥が跳ぶ  
おもてを大人が歩いてる  
それを見ながらききながら  
寢床の上には横になる。

つらいことではあるまいか  
空が明るく青いのに、  
もつと遊んでゐたいのに、  
ひるまの内から寢やうとは。

——スチーブンソン——

# 布袋讚

倉橋惣三

一

私は布袋が大好きである。あの圓い頭、ふくよかな頬、殊に便々たる蟠腹、いかにも呑氣に悠々暢達の容子が、何とも言へず大好きである。聞くところによれば、布袋は支那宋代の禪僧で、實の名は契此、號を長汀子とか言つた人だそうであるが、私はまだ其の傳を精しくしない。又必ずしも私の好きな布袋が、其の禪僧契此であつてもなくても構はない。私の大好きなといふ布袋さんは、繪に描いてあるあの布袋さんである。置物にしてあるあの布袋さんである。大きな布ぶくろを荷つて、長い杖をもつて、いつもにこ〜として大勢の子供達に取りまかれて居るあの布袋さんである。而して私の布袋を好むこと年既に久しい。

二

圖私は此の間、鐵道協會樓上に開催せられた狩野芳崖の遺墨展覽會を觀た。私は豫て芳崖に傾倒する處のものである。一枚の作品毎に、私は其の前を立ち去り難く思つた。殊に彼の傑作たる『慈母觀音圖』は常に最も傾倒貴重する處のもの、其の前に殆んど時の移るを覺えなかつたことは言ふまでもない。しかし、之等の有名なる諸傑作は、豫て知るところのものも少くなかつた。ところが私は此の展覽會に於て圖らずも最も愉快なる發見をしたのである。それは他でもない。布袋の圖である。私の足は其の前にどの位長く立ち止まらせられたであらう。

圖は目錄によれば『布袋唐子遊圖』と題せられて

居る。三重縣中村近之進氏の所藏である。横軸の大幅で、布袋は例の漫々たる便腹をたれて踞坐して居る。五人の唐子が其の膝にまつはつて、嬉々として戯れて居る構圖に於て普通の布袋圖と多く變つたところはない。たゞ其の顔の相好。ほんとうに洒々落落として、腹底から邪氣のない顔つき、殊に子供達を見て、溶けて流れる様に笑みこぼれて居る目つき、私は私の好きなほんとうの布袋を實に此の作に於て見出した様の氣がした。蓋し、私の布袋を好むこと年久しいに拘はらず、實をいへば私の好きな布袋に滅多に逢遇し得ないことを常に遺憾として居たのである。彼の七福神の間に伍して、鶴や鹿や、いやが上にもいや目出度く拵へ上げられて居るのや、たゞ淺薄な滑稽趣味で取り扱はれて居る布袋には、いつも頗る齟齬させられることが少くない。そこへ此の芳崖の布袋に遇ふことが出来たのである。私の満足はどんなであつたらう。私は嬉しさの餘り、丁度其の夜開かれ

た兒童學會の宴會の食卓で、早速此の新發見の喜びを披露して序に日頃の所感を説いて、思はず一場の布袋演説をして仕舞つた位であつた。其の布袋演説に述べた私の日頃の所感なるものは斯うである――

### 三

吾々教育の業に従事するもの、殊に幼兒の教育に従事するものは、其の計畫に於て精しく、所期に於て密に、責任を感じる嚴に、すなはち大に細心でなければならぬ。之れが爲には種々の研究もしなければならぬ。研究は學問である。研究者としては其の學問に對して、頗る神經質でなければならぬ。又實際教育の上にも自分の實際して居ることに、絶えず精緻なる反省を施し、深刻なる批判も加へて見なければならぬ。即ち此の點でも當然神經質でなければならぬ。決して、粗笨、懶惰放縱であつてはならぬ。しかし、子供に直接接するに此の神經質を以てしてはならぬ。神經質は最

よく相手を神経質にする。而して子供は最も神経質でないものであつて、又神経質にされてはならぬものである。子供は抱かれようとする。包まれようとする。酔はされようとする。又そうしてやらなければならぬものである。それでなくては子供は伸びない。育たない。活きない、即ち吾々は、研究者、反省者としては神経質であつても、子供に接するものとしては、最も非神経質でなければならぬ。而して此の注意は殊に現代の教育に於て一層必要である。見よ現代の子供の生活の如何に神経質になり勝ちなことを、而して一層更に、現代の教育者の神経質であり勝ちなことを。所謂現代式に尖つた神経、いらだつた神経で取扱はれては、子供の神経もおのづから尖つて來、いらだつて來ざるを得ない。之れは深く思はなければならぬことではあるまいか。

#### 四

斯う考へて來て、私の心はいつでも布袋に來る。

あゝあの大きな腹。布袋はあの大きな袋の中に一切の所有品を入れて居るのだといふことであるがあの大きな腹には一層多くのものを容れてあます處はあるまい。あゝあの大きな包容の腹。だからいつでも悠悠々として迫らず、嬉々として慍らず。教ふるよりも共に遊び、共に遊ぶよりも子供等をして我れに於て自らよく遊ばしめるの大教育が、つとめずしておのづからに出來て居る。宜なるかな。布袋のある處、群兒の必ず嬉々として追隨するや。

しかし、こんな理屈を言ひ出しては、却て布袋主義の眞諦に背くの懼れがある。吾人はたゞ、目の前に、心の前に始終布袋を見て、自分もおのづと布袋の仲間になれば即ちそれでよい。

# 幼稚園教育の要旨

目白幼稚園  
和田 實

近時幼稚園教育に關して、實驗や統計の報告が比較的によく爲されるやうであるが、單に幼稚園教育に關する諸種の經驗を漠然と積み重ねるといふだけでは頗る意義の尠いもので、幼稚園教育の全體に對して貢獻するところも亦頗る貧弱なものたるに止まるのである。

幼稚園教育の要旨といふ根本の問題が十分に考察せられ、理解せられて後、始めて實驗なり統計なりに意味が生じて來る。幼稚園教育の要旨といふやうな問題は根本的なものであるにも係らず、それが根本的であるといふ理由のために當然理解されて居るべきものとして、誰も之に就てあまり深入りをしやうとしない。これがために、百の計畫千の經驗も、實際的の効果そのものとはあまり

交渉する所がないと云ふことになるのである。常に新しかるべきこの根本の問題に對しては幼稚園教育者は常に心に向けて居らなければならぬ。私は日本の保育者に對しては特にこの點に關する考察を忽諾に附せられざらんことを望むものである。

すべて幼稚園教育に關する實驗なり報告なりは保育の要旨といふ根から出た枝なり葉なりでなければならぬ。實驗なり報告なりは保育の要旨を常にその根抵に持つて居なければならぬ。實驗は特殊であり、要旨は普遍である、普遍を含んで居る特殊のみが我々に對して暗示的である、單なる特殊は特殊としてより以上の價值を持つことは不可能である。

然らば幼稚園教育の要旨とは如何といふに私の考ふるところに據れば、それは兒童の興味の培養といふことに存するのである。兒童の興味培養といふことが何故幼稚園教育の主眼點となるか。これは幼兒の發達の順序から推して何うしても斯く考ふことが至當でなければならぬのである。私はこの點に關して以下に少しく説明を施したいと思ふのである。

若し我々の神經系統が、フロリダのいふやうに三四才頃までに完成されるものであるとするならば人格の基調が學齡前に略ぼ成就されるものと見ること大した誤のないことが承認せられなければならぬ。

近頃屢々、早教育といふ言葉を耳にする。天才の爲めに早教育を施すべしといふやうなことが盛んに唱へられるのである。しかし早教育といふことは何も天才者のみを對象とする必要はない、一般兒童を對象とする普通教育も早教育であつてよろし

いのである。否、教育は宜しく學齡前即ち七才以前から行はるべきである。一體今日の如く幼兒が七才になつた時教育年齡に達した如くに考へて、始めてそれでは教育に取掛らうといふやうにしてゐるのからして、甚だ迂遠な話であつて、幼兒教育に對して徹底的な考察を試みる勞を取つたことのないことを示して居るのである。しかし尤もこの事には理由がある、即ち一般の人々は教育といふと、之を主にも智育といふことにのみ解釋し易い傾向を持つて居るのである、斯る人々が學齡前の教育などといふ言葉を聞いた時、直ちに「頭腦のしつかり固つてゐない幼兒に、教育などといつて、いろ／＼なことをつめ込まれては堪らない」といふやうな考へ方をするのは無理のない話である。誠にさうである、私とても智育の學齡以前に行はるべき必要を急進的には認めて居ないのである。智能の教授が學齡以後に於て行はれることに對して私は決して異説を懐くものではないの

である。しかし教育は學齡以前に於て既に始められて居なければならぬといふことを私は主張する、何故ならば私のいふ教育といふ言葉は智育といふ言葉の同義語でないからである。成程、智育といふこともかなり重要な問題である、しかし教育といふ全體から見るとは智育の事は抑、末である。教育の一部分に過ぎないとこの智育といふことを教育の全圖にまで取りひろげる不自然を敢てしない限りに於て、教育の大體が學齡前に於て行はれるといふことに不都合はないわけである。斯く解釋して來ると特に早教育なる言葉の存することが些か滑稽に感ぜられて來るのである。

却説、本題に戻つて兒童の興味といふことに就て少しく研究して見やう。兒童の興味は活動に伴つて生ずるのである。兒童は活動を欲して居る、即ち常に興味を得んと試みつゝあるのである。兒童の生活は興味を追うて動いて居るのである。故に幼稚園教育者の目標とするところは兒童の興味

といふことでなければならぬ。即ち幼稚園教育者の任務の主なるもの、一つは兒童の興味を誘導することに終始することである。ヘルバルトが教授に際して多方面の興味を喚起する要があると説いて居るのは大いに意味のあることである。斯ういふ風に考へて來ると幼稚園教育の目的は興味にありと言つても太した間違はないことになるのである。幼稚園教育者及び兒童研究者は以上の理由に鑑みて、先づ兒童の興味の發生を研究しなければならぬ、遊戯の研究なども必ずこの兒童の興味といふことに關聯させて行ふのでなければ教育上には價值が尠いものとなるのである。先月の「兒童研究」にも某文學士の遊戯に關する研究が掲載されてゐたけれども、遺憾ながら兒童の興味といふことに關聯を持つた研究ではないやうであつた。兒童の遊戯をいろいろ集めて來たいけでは、遊戯そのものゝ研究には資する所があるかも知れぬが、教育的には太した意味を持ち得ないのである。兒



戲を研究し、これを適當に案配して、兒童の興味を益々増盛せしむるといふことになるのである。尤も興味を起させるとは言つても最後の理想的興味を十分に起させるとに於て失敗したならば幼稚園教育は九仞の功を一簣に欠いたと同じ結果に陥るのである。統一、理想の興味が起らなかつたならば兒童は徒らに多くの興味を示唆せられて、移氣な、まとまりのない生活に導かれて了ふであらう。従つてかゝる兒童は集中を行ふことが出来ない、即ち勉強に不適當な兒童となる。幼兒保育の興味説の重要な點が即ち茲に存するのである。理想の興味統一の興味は何うして與へらるゝかといふにこれは主としてお話とか唱歌とかいふやうなものに依つて與へらるゝのである。この點からいふと幼稚園に於けるお話と唱歌とは實に重大な任務を持つものとなるのであつて、これが選擇は實に嚴重に爲されなければならぬのである。お話や唱歌の選擇振り如何が實に幼稚園教育の効果を左右する

といつても間違ひはないことになるのである。

斯くして幼稚園に於て兒童に統一の興味、理想の興味を起させることが出来たならば、即ち平たくいへば、大きくなつたら何をしやうといふ問題に對して熱烈な考を兒童に懷かせることが出来たならば、幼稚園教育の任務は全ふせられたものと見てよいのである。

國語の教授などは小學校から始められるやうに考へてゐる人もあるが、國語の文字を覺えることは成程學齡以後が適當であるかも知れないが正しき發音正しき話し方は既に幼稚園時代から注意せられて間違つた音や話し方を初めから覺えさせないやうにするならば、小學校へ入學してから新に國語を覺え直す必要はないことゝなるのである。斯く考へて來ると小學校は初等の學校でなく、中學校であるのである。初等の教育を司るものは幼稚園である。而してこの最初の教育を施すところの幼稚園は兒童の興味を適當に誘導して行くことをその任務として居るのである。(文責在記者)

# 幼稚園出身兒の成績

京橋尋常小學校長 笹野 豊美

幼稚園を卒業して小學校へ入學した兒童は如何なる成績を示すか、此問題を具體的に調べるには幼稚園を経て來た兒童と幼稚園を経ずに直接に家庭から小學校に入學した兒童との成績を比較してみることが一番手近な方法である。しかしこの場合に於てはこの兩種の兒童の家庭の狀況があまり著しき差異のある場合には、その調査し得たる比較表が幼稚園保育の效果に就て語り得る意味が甚だ不鮮明とならざるを得ない、即ち相當の資力を備へて子女の教育に十分留意し得る家庭とその日々の生計の爲めに思ひながらも子女の教育に十分留意することの出来ない家庭とがあつて、前者がその子女を幼稚園に送り、後者がその子女を幼稚園に送る餘裕を待たぬとするならば、この兩種

の兒童は初めより著しき差異のある教育的資力に待たれて居るのである。而して就學年齢に達したといふ理由で、否應なしにこの兩種の兒童は等しく小學校の門を潜るべく要求される。この場合兩種の兒童が互ひに成績の等しきを得ないことは豫じめ考へらるゝのである。

それから又幼稚園を卒業して來た兒童の数が非常に尠い場合にも亦比較表の語る意味を遽かに信ずることが出来ない、何故ならばそれは特殊の場合であると見られないこともないからである。

京橋尋常小學校は幸ひに以上に擧げた二つの困難を避けて、この兩種兒童の成績比較表を作ることが出来るのである。何となれば京橋尋常小學校へ入學する京橋區内の兒童の家庭は、概して言



平均				第六年				第五年				第四年	
女		男		平均		女		男		平均		女	
家	幼	家	幼	家	幼	家	幼	家	幼	家	幼	家	幼
七、五四	八、四〇	七、六一	八、三二	七、四五	八、〇三	七、四五	八、二五	七、四二	七、八七	七、六五	八、六八	七、六〇	八、六一
													七、六六
													八、八五

總平均 家 七、五八 幼 八、三六

以上の比較表に依つて見ても知らるゝ通り、入學したての一年生の時でも、六年生の時でも、男生でも女生でも、すべて幼稚園出身兒童は優良な成績を占めて居る。

この比較表の示す如き結果に據つてみれば、幼稚園保育の實に悔るべからざるものなることが判明するのである。これは一面幼兒を幼稚園へ入園せしむる位の家であるから教育に熱心であるに相違なく、従つて幼兒の成績が優良となるのであるが、一面幼稚園に於て幼兒の身心を適當に發育せしめ、殊にその身體を強健ならしむべく努めた結果であることは明白である。身體の健康の度に比例して能力も備はるものであるとすれば幼稚園に於て十分に運動遊戯を行うて來た兒童が優良なる成績を收めるのは寧ろ理の當然である。(談)

# 貧兒保育の話

(一)

二葉保育園 徳 永 恕 子

二葉保育園は設立者の野口幽香、齋藤峯子兩先生が學習院女學部幼稚園に奉職せられて居りますので、上流社會の子供に親しみ深き所から、その反對の下層社會の子供の悲惨な境遇に眼が付き、彼等にも同じ樂園を與へたいといふ同情の念が動機となつて設立せられたのであります。明治三十三年からずつと今日まで引續いて來て居るのであります。尤もその頃は麴町下六番町に家賃六圓の借家をして、近所から六人の子供を集め、届けだけすませて、名ばかりの開園を致しました、二葉といふ名の起りは、細川男爵作歌幼稚園保姆合唱の歌の中に、「二葉の撫子さかゆく園生」といふのがありましてそこからとつたのであります。その後、土手三番町へ移轉し、明治三十九年に現

在の四谷鮫ヶ橋へ新築移轉したのであります。園の名は初めは二葉幼稚園と申して居りましたが大正五年から二葉保育園と改名することにいたしました、それは事業の性質が段々と純粹の幼稚園といふ意味から遠ざかりまして、其筋の規定せられた規則に従ふ事が困難になつて參りましたことも、いろいろの理由の内の主なる一つであります、本園の目的が他の幼稚園の様に子供を教育するだけに止まりません爲めに親の便宜上どうしても三年以下の者をも、甚だしきに至つては二歳未満の者をも收容せねばならぬ事情に幾つも遭遇しますので、それ迄にも幾分默許して頂いて居りましたが、段々とその數はふえる許り、いつその事公然と三年以下の者までをも收容出來る様に性質を

變へやうといふことになりました。即ち従來は教育の部に屬して居りました事業を今度は純救濟事業として内務省の所轄に歸することになりました。そこで事業の混同を避けるために幼稚園の名を更ためて二葉保育園といふ事にいたしましたのであります。

生活の落伍者たる細民の多數は、不規則と頽廢と自暴自棄とから、向上進取の氣性を失ふのが通例であります。これらの人々にとつて唯一の慰藉となり光明となる者は、貴むべく又愛すべき未來ある彼の人々の子供であります。彼等はこの子供の爲めに働き、この子供の爲めに奮發して、辛うじてその自棄墮落より救はれてゆくのであります。が、生れながらにして何の罪もなく只この親の子と生れた爲ばかりに、あらゆる悪い感化のうちに生ひ立ち、捻け曲つた習癖に慣らされて、果ては世の中の厄介者となり、社會に迷惑を及ぼす事になるのでございます。二葉保育園はこれらの

子供を家庭から引離し、教育的に保護を與へて、眞面目な、正直な人間に育て、やり、一方は又足手まとひになる子供を預つてやつて、親の勞働を十分にさせてやりたいといふ、此二つの目的から設立せられたものに外ならないのであります。

私共は又かねてより鮫が橋に貧兒收容の満足を得ると同時に、市内至る所に散在して居る同種部落に對して、せひ、この幸福をわかちたい必要と希望とから、其所々に分園設立の責任を感じて居るのでございます。

私共が新宿南町に分園を設置したことをお話しする前に、私共の事業の對象となつてゐる貧民窟が如何にひどいものであるか、従つて又これが救濟の如何に急務であるかを皆さんに分つていたゞくために、貧民窟の状態を一通りこゝで申述べることが便利であると思ひます。

扱、東京に於ける貧民なるものは諸處に散在して居りまして、あちらには幾千人部落をなし、こ

ちらには數十戸一團となり、市中にも市外にも特殊の生計を營んで居ります。

私共は東京に於ける貧民窟の中でも一番ひどいと思ふ處と淺草公園の夜中の有様、即ち不良少年と浮浪人とが夜を明かす状態とを視て來たことがあります。其中に淺草の田中町と云ふ處に五十戸許りの一團があります、その實況を一つ申上げてみませう。こゝはトンネル長屋と稱へまして、大きな長屋の中央に縦に長く幅三尺のトンネルのやうな道がつけてあります、それを中心にして左右に肋骨の如くしきられ、そこに二疊の室、三疊の室が列び、中には一疊のものもあります、トンネルに向へる入口のほかは三方壁で、やつと一ヶ所の窓がありますが、窓の外は直に他の建物に遮られ、風通しのないのは申す迄もなく、私共の夢にも想像し得ない程光線が不足して居ります。先づトンネルの端から這入りこみますと、中はまつくら、人の居るのも下駄のあるのもさつぱり見分

けはつきませぬ。そろり／＼と歩を進めまして、やう／＼暗いのに慣れて來ますと、初めて兩側の部屋に人間の居るのが見えて參ります。眼を据えてよくみますと、男も女も、親も子も皆裸で、どの部屋にも、どの部屋にも、ごろ／＼と寝て居ります、二疊の間に四人も五人もが、からだとからだと相接し、足と頭と相觸れあつても、彼等は尚熟睡して居ります。南京蟲のために睡ることが出來ぬと訴ふる者もあれば、足も手も一面に化膿して仰臥した儘ギャア／＼と泣いて居る子供もあります。二疊の間に五人の子供が母親のまはりに取りすがつて居るのを何かとみますと、恰度食事をして居るのでありました。十二を頭に赤坊迄五人の子供、着物を着て居るのは赤坊許りで、ぼろ疊の上にごろりと寝かしてあります。母親は小さな井に御飯の入れたのを持ち、五つ位と四つ位かとも見える二人の子供は、小さなお茶呑茶碗のからつぼうのを持ち、左右より母親にすがりつき、御飯

をくれとねだりませぬ、母親は容易に與へませぬ、しきりに泣きますが尙與へませぬ、兄と姉は此光景をみて一言も發しませぬ、只一口でも自分にまはつて來るのを待つてるかの様に見受けられませぬ、父親はと聞けば、日雇人夫で一日四十錢の收入、其内五錢は家賃一日の日がけと申事、而かも雨が降れば彼等の收入は皆無となり、お天氣のよい日も尙仕事の得られない日がいくらもあるとの事です。日雇人足などの受負人は澤山に人夫を列べて置いてからだのいゝのから選つて行く、といふ有様ださうですから、一日四十錢といふ此收入も得られぬ日が少なくないと聞くに至つては、果してどんなにして彼等は生きて居るのかと、疑はざるを得ぬ次第です。勿論收入の無い日は、彼等は食へずに寝て居るさうです。絶食、きいてさへ恐ろしい此文字が事實に現れて、一日はおろか二日も三日も續く時などには、まあどんなでありませうか、大人は尙これを忍び得もしませうが、頑

はない子供に餓えて泣かれる時の親心、まあ考へてみて下さいまし、此際誰か方法をつけて世話をしてやる人がないならば、悪い心の起るのも無理はない、人の物を取つてゝも、可愛い子供に一口の満足と與へてやり度いと思ふ程になるのは、當然の成行ではありますまいか。しかも此二疊の家族の一人の子供は、普通の能力はないらしい表情が明かであり、惣領の男の子も學校へは行かぬと申します。彼等の前途を思ひつゝ、更に淺草公園の不良少年團の深夜の状況をみます時に、一種の恐怖に打たれて、彼等が社會に及ばず後來の悲劇に戦慄せざるを得ませぬ、子供だと思つて中々侮られませぬ、もう八つから不良少年の仲間入りをするさうです。石の上でも草の中でも、ごろ／＼と寝て居るかと思ひますと、巡つて來る巡查を認めてこそ／＼と逃げてあるく其敏捷さ、親もなく家もなくたべる物もなく、野犬か何かの様に生きて育つて居ります。浮浪の果はどうでありませう

か、世を恨み人を羨み、盗みをし火を放ち、一度心が動けば爆裂弾を投ずることをもいとはないといふ事になります。何が恐しいと申してこんな恐ろしい罪惡の製造所が、東京中に幾ヶ所も散在して居ると云ふことは、誠に驚くべく、戦慄すべき問題ではありますまいか。かゝる光景を眼前にみせられた私共は、血湧き肉躍るとは誠にこのことでありませう、あゝ自分達の贅澤さ、世にはかゝる子供もあるものを、これも神の子、わが同胞ではあるまいか、牛や馬でもこんな生活にはたへられまいものを、人間と生れたのは果して幸か不幸か噫乎。

私共はこれを見て如何に同情してやつたとて、泣いてやつたとて、何の役にも立ちませぬ、私共は云ふよりも、泣くよりも先づ救ふ方法を講じてやらねばなりません、善を知つてせざるは罪なりとき、不自由なき私共が、是等の貧しき人々の爲めに力を盡すのは當然の義務ではあります

すまいか。

斯くて私共は鮫が橋の本園以外にも、早く何處ぞへ分園を設けて、そちらをも經營して行きたいといふ決心を愈々固くしたわけであります。

そこでまづ第一に適當な候補地として一二年來眼をつけて居りました新宿南町と云ふ處に調べを進めてみたのでございます。

こゝは近年市内の整頓につれ、自然に落ち集つて來た細民窟として有名な所にして、所謂共同長屋が四百數十戸埋立地に建てられ、二千餘名の落伍者が集合し、慘憺たる有様は鮫が橋以上ともいふべく、誠に驚くべき状態になつて居ります。度々視察するに従ひ、益々適當な場所たることが確められ、せひ、此地にと決心するやうになりました。ところへ同地の有志家安藤廣吉氏に紹介せられました、話は次第に進み、同氏の熱心なる後援斡旋の下に、昨年十一月からいよく分園開始の運びとなりました。

以上は細民の状態をお話すると共に二葉保育園の沿革をざつとお話したわけでございます。

當保育園の概則を次ぎに掲げてみます。

一、三才前後より學齡迄の貧民の子供を保育し兼ねてその父母を向上せしめるのが目的。

二、保育の項目は遊戯、唱歌、談話、手技など

三、毎日預る時間は午前九時から午後四時迄、七時間が一般の定め、但し家庭の事情により朝はいくら早くからでも迎へ、夜も遅くまで預る、日曜日、祭日も預るのもある。

四、お休は日曜日、大祭祝日、冬休、夏休（冬休、夏休は便宜に日を定める）

五、入園望みの者は住所、姓名、年齢、父母姓名、年齢、職業、収入、家族數など申出させ調べた上適當と認められた者を入れる。

六、定員は本園三百人まで、分園は百五十人位まで收容することが出来る。

七、保育料はいらぬ。幼稚園監督の下に毎日貯

金せねばならぬ。

八、毎月二回の親の會には兩親の内、どちらかが出席せねばならぬ。

以上の如く八ヶ條の規則の様なものがあります。が、いづれも抜き差しにならないやうな嚴重なものではなく、臨機應變、極めて自由に取計つて居ります。以下少しく規則の説明を試みてみませう。

一、世の劣敗者として、社會の裏面に隠されながら、尙生きて行かねばならぬ彼の人達、毎日く眼前のパンにのみ心は一ぱいになつて、少しの餘裕のないのさへ随分あはれな生涯と云はねばなりません。中でも其中に生ひ立つてゆく子供の上に一度考へ及ばしますと、あはれと云ふよりもむしろ戰慄しないでは居られぬ問題になつて參ります。第一に生れ落ちるとから食物の不足です、子供に餓ゑさせる位性質を曲げさせるものはありますまいが、これが誰の上に

も避け難い境遇なので、營養不良、無教育、不潔、不道徳とあらゆる悪い事の中で、いやでも應でも育つて行かねばならないこれらの子供の行末がどうなるものかは想像するに難くはありませぬ。實に泥坊、人殺し、火つけ、などと恐ろしい犯罪人の玉子はこの社會で毎日育て上げられつゝあるのが事實であると知つた以上、誰しも黙つて居られないではありませぬか。

そこで二葉保育園は其幼い子供をなるべく悪い感化の少い内に家庭から引離し、日當りもよければ風通しもよい、花の咲いてる中でかけつことも自由に出来るといふ心持のよい處で、充分に子供の本性に適ふ満足を與へてやり度い、どうか身も心も健かに生ひたつて大きくなつたら良民として正業に就く者であらせ度い、貧しくとも正しい清い生涯を送る様に保護してやり度いとの希ひから成りましたので、一方から考へれば無教育な親や罪惡にとりまかれて居る彼等の

社會から、いつそ子供を取り上げてしまひたくもなる、けれどもいくらわからなくとも、親は親蚤や虱に攻められながらも相抱いて眠る其間に親の方には望が出来、子供の方には親を思ふ情愛が養成されると云ふ妙味が存するので幼稚園として晝の間だけなるべく永い間預るのが最適當な方法と考へられます。

また一つには親の方を思へば、手足まとひの子供を終日引きとつて其間に一生懸命働かせ、一面には私共が親達につとめて接觸し指導して、精神上にも物質上にも幾分でも立ち優つた生活をさせ度いと思ふので、こんな有様に親と子の兩方面から救はうと云ふのが私共の希望で努力して居る處なのであります。

二、保育の項目と云ふのは普通幼稚園と餘り變つた事もありませぬ。中にまづよそと違つて居りますのは手技の一つとして袋張りをさせる事です、これは寄附雜誌を裁つて置いて、大きい

や小さいのや袋を張らせませす、そして百枚七厘とか一錢とかいつたねだんで、お菓子やに買つてもらひます、それは上の組だけの仕事で、其お金を一年間ためますと、三月卒業前に動物園へ行く時の電車買切りの代になり、残りで記念樹を植ゑたりいたします。小さい時から働けばお金になるといふ事の實際教育の積りで居ります。

三、保育時間は九時から四時迄の七時間が一通りの定めにして居りますが朝は早くから門をあけて、親の仕事の都合でいくらでも早くから迎へてやります。母親のない者で父親の夜働きに出る者などもありますからそんな者は夜分九時でも十時でもおやぢの仕事の歸りに迎へに来る迄預つて寝かせて置きます。中にはいたいけ盛りの子供二人も三人も残して母親(或は父親)が逃亡した様なものもありまして、上の子と云つても小學校の一年か二年、そんなのは兄弟相携へ

て早くから参り、兄弟は園から半日の學校通ひ先生行つて参ります、只今とまるで家の様な氣で居ります、勿論こんな事情のは日曜でも夏休みでも預つて置きますから、十人内外子供はいつでも來て居ります。

四、お休は日曜大祭祝日は前からも休んで居りましたが、夏休と云ふ事は近年から始めました。幾度もいろいろ経験して見ましたが、結局休む方がよいと云ふ事になりました。一口に申せば先生にも親にも子供にも變化になりました。先生には休養が出來ますし、恩恵に慣れ易い親と子とは休中の難義の爲に休後の恩恵が新たになる、と申した風で、二十日間の休みが餘程いゝ様に考へられて参りました。

五、入園志望者は家庭の狀況、と申しても家族の數子供の數收入職業生年月日など書き出させまして、一應訪問し實狀に接した上で適當と認められた者から許します、永く此土地に住んで居る家

などでは訪問に参りますと、そら先生がおむかへに來たとか、あたいはもう少し大きくなつたら行くのだなど申してもう其年頃になれば當然はある権利があるかの様に幼い子供がたのしんでまつて居ります、新たに他所から移轉して來て困つて居るのなど見ますと同じ長屋の人達が直ぐ紹介してつれて参ります。どの位の程度かると標準を定めることはとても出來ませんが只表通りに住んでる者は入れないと云ふことだけは表むきにきめて居ります。

六、定員は今の建物では二百五十人位を適當と考へて居りますが、近處の子供は全部收容したいと思つて居りますから三百人迄は容れうる積りで居ります。毎日の様に人數は動きますが大抵二百六七十名の間に居ります。

七、保育料はとりませぬが、幼稚園監督の下に毎日貯金せねばならぬ事になつて居ります。普通は毎日壹錢宛持つて來させまして、其内五厘は

子供のおやつに致し、五厘を切手貯金にいたします。家に居ればどうしても二錢も三錢も小遣をつかうさうですから、毎日一錢持つて來る事は左程困難ではない筈であります。尤冬枯れの彼等労働者間に一般仕事のない頃などには一錢出來ぬ爲に休ませるなど云ふのもありますから、そのは事情を調べて許してやる事もあります。中には二錢も三錢も持たせてよこすものもあります。其お金は卒業の時でなければ出さないうことにきめて居りましたが、いろいろ其弊をさとりましたので、近頃は自重して自分のものをつかう様に其下したい原因の相談にあづかり適當と認めたと上は幾度でも下すことを許す、其代り只義務として一錢を持たすだけでなく一生懸命多くの貯金を心掛ける様にと方針をかへましたので親達もだん／＼其氣になり暮のためにとか、冬枯れの爲になど、僅ながらも特別の目的をたて、預ける様な者も出來て参りました。

卒業の時下げたものは其中で紀念の寫眞を買ひ、あとは學校へ行く爲の着物の一枚もこしらへます。

八、毎月一日と十五日の夜が親の會定日になつて居ります。入園の始め月二回の集りには親の義務として出席せねばならぬ事をよく約束いたします。毎回かなり集ります、多い時は百五六十人、ごく少い時でも六十や七十は出席いたしました。一日働いた上に御飯をすませて來るのですから時間など中々きめられませぬ、大方集るまでは保母が自分の組の親達と懇談して居ります。凡そ集つた頃連れて來た子供を集めて遊戲や唱歌をさせて見せます。これは親達にとつて餘程樂しみと見えてたまにやめますと催促すると云ふ有様、それから親達に讚美歌を教へたり聞かせたり、なるべく心を集注させて後園長の宗教、教育の談、ごく平易に話さねばわかりませんから中々困難です。こんな風にして居りま

す間にわるいはやり歌の代りに讚美歌でも口ずさむやうになり、お味噌や豆の效能をのべれば翌日のお辨當に早速實行されると云ふ工合に少しづつ變つて參ります。近頃は父親の出席が大分多くなつて參りました。

以上は二葉保育園の諸報告書を基として、いろいろ私共の事業に就てお話したのでありますが、次ぎには新宿の分園に收容しました銀三といふ少年を例に取つて、貧兒の保育に關する經驗談をお話し致しませう。(文責在記者)

○お断り

菅原先生の「色彩の心理」は先生が一寸お加減がわるかつた爲めに本號だけ休載することになりました。(記者)

# 音樂の味ひ方

(フレイベル紀念日講演會講演筆記)

理學士 田邊 尚 雄

## 序

音樂の組織、發達に關して、我國では從來あまり理論的研究が行はれなかつた、これは音樂をほんの慰みに過ぎぬもの位に考へる人が多かつたからでいづれも音樂の發達、組織に關して研究を試みたことがないからである。

泰西の社會に於ては、音樂が大いに重んぜられ音樂に關する大體の智識は常識として心得て居ねばならぬといつた調子であるから日本に於けるとは大いに趣を異にして居るわけである。日本では

音樂を餘分な藝事のやうに考へてゐるけれども、西洋では音樂は教養ある人格の一要素と考へられ

てゐる。それが爲めに西洋では音樂の試験に及第しなければ、何の先生にもなることが出来ない、といふやうな規定をさへ設けてゐる國があるのである。

日本では江戸時代には、かなり盛んに音樂が行はれてゐた、しかし明治時代に入つてから、他の方面に於ける啓蒙運動にいそがしかつた爲めに、音樂の事は一時顧みられなかつた。それが爲めに音樂はあまり行はれぬやうになり、従つて音樂に關する研究も行はれなかつたのである。しかし世も大正に入つた今日では却々そんなことを言つては居られない。

一體國の發達状態と音樂とは大なる關係を持つてゐるものであつて、隆盛に赴いて居る國は必ず立派な音樂を持ち、之と反對に衰頹しかけて居る

國は音樂も亦頗る振はないものである。それ故に音樂の研究といふても却々道樂半分の仕事ではない、國力振張の上に大なる影響を及ぼすものであるといふことを考へて、これが研究の益々盛んにならんことを希はなければならぬのである。

音樂とは如何なるものか、この問題を一通りお話すことは實に容易なことではない、殊に日本人のやうに、この方面に關する智識の延びることを長い間制してゐたものには、却々簡單に話し終ることは困難である。極く初歩のことから話してゐるとこの講演が何時間かゝるか分らない。それで僅か三時間ばかりの内に音樂といふものゝ、大體を分るやうにお話するには荒筋を申上げるより他仕方がない、それでこの講演が極めて簡單で大體を述べるに止まるものであることを前以ておことりして置く次第である。今日御出席になつて居らるゝ方々の中には音樂を御研究になつて居らるゝ方もおありであらうが、一般の説明を容易な

らしめるために、それらの方々にも、極めて初歩の智識に關する説明を聞いてゐて頂かなければならないことをもおことり申して置く。

音樂の講義はたゞ口だけでお話したのでは却々腑には落ちないものである、乃で私は説明の補ひとして蓄音機を用ゐる。しかし一枚のレコードが五分かゝるので、一時間に十二枚しかやれない、三時間たてつゞけに蓄音機ばかりやつてゐても三十六枚しかやれないのである、乃で蓄音機も十分にお聞かせすることが出来ないことになる。すべてに於て今日の講演は時間が尠い爲めに十分な説明をすることが出来ないのは甚だ遺憾であるが、これはいづれ他日何かの機會に於て補講したいと思ふ。蓄音機なども、日本では蓄音機屋が綠日に浪花節を聞かせたり、家庭に於ても、ほんの玩具と等し並みに見られてゐるやうであるが、外國では活動寫眞と共に學校に於て應用せられ、大いに説明の不備を補うてゐるのである。

日本の家庭に於ける音楽は今實に混沌として居る、娘か息子が西洋音楽を生嚙りする、父親が謠ひをうなる、母親が長唄をやるといった調子で、お互ひに樂器を合せて一家が睦しく團欒するなどといふことは出来ない。歐羅巴の家庭では樂器が違つても一家中で同一の曲目を合奏して樂しむことなどが出来るのである。尤も日本でも江戸時代には三味線が家庭の音楽の中心となつてゐて、統一が行はれてゐたのである、けれども今日では三味線といふ樂器が世間から幾分卑しめられてゐるために、中流以上の家庭で一家揃つて三味線を弾くなどといふことは一寸出来にくいのである。日本では平安朝時代が一番よく家庭音楽が發達してゐた。日本の家庭音楽の沿革及び將來に對する希望に就ても十分述べたいのであるが、今日は先きを急ぐためにこれらの問題をすべて略し、直ちに音楽の組織といふ問題に移ることとする。

## 音楽の組織

音楽の組織をお話するには、音楽の形式と内容とに就てお話ししなければならぬ。

一體形式と内容とは如何なる藝術にも備つてゐるものであるが、音楽に於ては殊にこの形式と内容が矢笠しい。音楽には全然内容といものを離れて形式だけのものがあるのである。家庭音楽としては形式音楽がいゝか、内容音楽がいゝかなぞといふことも却々問題とされてゐるのである。

理論の順序から言へば、これからすぐに作曲法のお話に入るといゝのであるが、それでは六ヶ敷くなるから、先づ音楽の内容のお話をする。

音楽の始まりは形式音楽であつて、内容音楽ではない。これは素人考へには内容音楽が先きであつたやうに考へ易い。鳥の聲をきゝこれを眞似やうとした時、そこに音楽が現れる、即ち内容を主とした音楽が先づ起るのであると、成程この説

は一應尤らしく聞えるけれども正しくはない。或る心のはたらきがあつて、これを何かの方法で音として外部に現さうと人間が努める時、そこに始めて音楽が現れる、これが音楽の始まりであり、形式を主とした音楽は即ちこれである。

音楽の要素となるものは三つある。それは拍子旋律、和聲である。拍子とは普通語の拍子と同義で、英語にいふリズムである。旋律とは、ふしのことであつて、音のあがりさがりである。和聲とは多くの音を組合せて出る音で、英語にいふハーモニーのことである。すべての音楽は以上三つの要素から成立つてゐるのである。然らば必ずこの三つが揃つてゐなければ音楽ではないかといふにそんなことはない。この三つの内のどれでも一つを備へてゐれば音楽となり得るのである。南洋土人の間には拍子ばかりの音楽がある。日本でも御會式の時に團扇太鼓を叩くが、あれが拍子ばかりの音楽といへばいへるわけである。南亞米利加には

又のべつに上つたり下つたりばかりしてゐる旋律の音楽がある。日本でいへば平安朝の朗詠なども旋律ばかりの音楽である。朗詠には簫、筆箏、笛等が奏せられるけれども、絃楽器は使用せられなかつた、而かも是等の樂器は朗詠の後から從いて行くだけであるから、朗詠の旋律とは何等の關係もなかつたのである。三味線音楽になると旋律以外に拍子が入つて来る、何故といふに絃いとが入るからである、絃が入れば必ず拍子が出て来るのである。拍子も旋律もなく、たゞ音だけを合せる音楽もある。扱て以上の音楽の三つの要素に關聯してお話を進めるのであるが、その前に一寸歐羅巴諸國の音樂的位置をお話してみる。

西洋の音樂の中心は伊太利と佛蘭西と獨逸の三ヶ國である。英吉利は北の方に離れて、島國である爲めに中心とはならなかつた。西班牙、露西亞、匈牙利、瑞典、諾威等は最近世に至つてやうやく隆盛になつたのである、殊に露西亞の音樂は十九

世紀以後には長足の進歩を遂げたけれども、それ以前にはホンの俗謡位があつたばかりで、頗る振はなかつたのである。

伊太利の音樂は旋律のみが異常の發達を遂げて居る、南國的な農麗な土地の影響を受けて節がはやかである、従つて伊太利のオペラは見るものではなく聞くものであるとされて居る。拍子のおもしろいのは西班牙、匈牙利などである。一體拍子のおもしろい音樂は中央亞細亞にあつたので、これが回教と共に亞刺比亞を経て、歐羅巴の是等の國々に入つて來たのである。しかし西班牙も匈牙利も拍子はおもしろくて結構であるが、他の方面が一向に發達してゐない。音樂の三ヶ國に就ていへば、佛蘭西が一番拍子がおもしろい。佛蘭西は西班牙と共に舞蹈の盛んな國である、従つて舞蹈と兩々相進んで、拍子の音樂が發達したのである。佛蘭西にグランド、オペラの發達したのはこの拍子を主とした音樂と舞蹈とが並び進んで來た

結果である。このグランド、オペラは實に立派なもので、かのワグネルさへも之を模倣しやうと試みた位である。グランドといふのは大きいといふ意味であるが、オペラそのものが大きいといふ意味ではなく、取扱つてゐる事件が大きいので斯く稱してゐるのである。要するに佛蘭西の音樂は舞踏と引離しては考へられないものである。

獨逸の音樂は如何といふに、獨逸人はチュートン人種であつて、ラテン人種のフランス人とは大いにその國民性を異にして居る。獨逸人は何か發表する際に感情だけを以て之を行ふなどといふことは決してなく、常に必ず理性を伴はせるのである。乃でこの理性的な獨逸國民の間には和聲が發達した。多くの音を組み合せることなどは理性的でなければ出來ない仕事である。日本人にも和聲は出來ない。ハーモニーはチュートン人種特有のものである。ハーモニーは紀元一千年頃チュートン人種の間から起つて來たものであつて、チュート

トン人種の間で榮えてゐるのである。日本でも平安朝頃の音楽は餘程獨逸式で、ワグネルの事業なぞに似通つたものがある。がしかし日本人は音楽の上からいへば、伊太利人に最もよく似てゐるのである。ハーモニの發達してゐる獨逸には旋律のいゝのがない。十九世紀の初め頃に、メンデルゾーンといふ旋律のおもしろい音楽者があつたがこれは調べてみると獨逸人ではあるが、伊太利で育てられ、伊太利的に教育せられた人である、そこで彼が旋律に巧みなること亦宜なる哉といふことになるのである。

歐羅巴の三ヶ國が以上の如く、音楽の三要素の一つ一つに於て秀でゝあるのである、即ち伊太利の旋律、佛蘭西の拍子、獨逸の和聲といふことになるのである。

旋律の音楽の例としてはドニゼツチーの「ルチア」などがよろしい。

ゲーテノ・ドニゼツチー、一七九七—一八四八、非常に調子

のいゝ演劇的の作曲をした伊太利の作曲家、佛蘭西のグラン・ド・オペラの起源には忘るべからざる關係を持つ人である。

「ルチア」にはルチアといふ女が狂亂する場景があつてこれが非常に六ヶ敷い、歌劇女優の手見せには恰好の曲である、伴奏に笛を用ゐて非常に六ヶ敷い旋律の歌をうたふ、しまひには笛と聲とが一緒になつて分らなくなつて了ふ、すべて旋律を綺麗に綺麗にと心掛けて作られた曲である。(蓄音機)。伊太利には斯ういふ風に旋律のすぐれた曲が多い、そこで女優などは皆伊太利を有難がり、自分の藝名なども伊太利人のやうな名をつけるのである。

拍子の音楽の例は、ブランド、オペラから取つて來るといゝ、先づマイエル・ベールの「預言者」などがよからう。(蓄音機)

マイエル、ベール、一七九一—一八九四、獨逸の作曲家、伯林で生れ巴里で没した。

一體佛蘭西の音楽の特徴は拍子のおもしろいといふことゝ、貴族的であるといふことゝの二つど

ある、而してこの特徴は英吉利と波蘭土とに影響してゐる、但し波蘭土へは拍子のおもしろさのみが影響してゐるのである。拍子がおもしろく、貴族的であるといふこの特徴をみるにはサン・サエンの「ヘンリー八世」なぞがいゝと思ふ、これは沙翁の原作へ作曲したものであつて、前半はモリス、ダンス、後半はシエフアード、ダンスから成つてゐる。(蓄音機)

和聲の音樂の例としてはワグネル(一八一三—一八八三)のものなぞがいゝ、一體に獨逸の音樂は威力的で、力強さの感じが迫つて來るのが多いワグネルは非常に理性的で、常に何うしたら人を抑へ付けることが出來るかといふことを考へつゝ、作曲してゐたのである。彼はマイエル・ベールを聞いて大いに發奮し、これに真似て「リエンチイ」を作つた、これは全體で五幕あるが、その幕開きは革命軍の大將が出來て來て、喇叭が鳴つたり、議會で祈禱をしたりする、而して貴族の跋扈を罵り

市民を熱狂せしめるところがあるが、グラント、オペラの真似で、拍子がおもしろく、獨逸流でない。(蓄音機) ハイドンに始まり、モツァルト、ベートーベン、シューベルト等に至つて大成されたシンフォニーは和聲の例として最も適當なものである。シユニーベルトの作つたシンフォニーに有名なものが二つある。シンフォニーとは第一部以下第四部に至る四曲部から成立つ管絃樂である、シユニーベルトにはこの四曲部を完成しなかつたシンフォニーがある。「未完成のシンフォニー」と言つて一寸有名である。(蓄音機)

以上で大體音樂の三つの要素のお話が終つたわけであるが、右の内拍子が一番分かり易く且つ人を感動させ易い。一番六ヶ敷いのは和聲である。茲で一寸保育に關係のある話は、子供が四歳か五歳になつたならば、子供の後から兩手を持つて拍子を取ることを教へてやるとよろしいといふことである、さうすると子供は先づ拍子が分るやう

になる。五歳位になつたならば、旋律ふしを教へてやるとよろしい。子供には先づ正しい音階を耳に入れてやるやうにしなければいけない。子供には半音の入つた歌などは教へないやうにしなければならぬ。半音は不自然なものである。全體子供に教へる歌は文句は分からなくともいゝから旋律ふしのはつきりしたものをやらせなくてはいけない、子供に音樂の素養を附けやうとするならば、子供の唱歌に内容（意味）を要求しないやうにせねばならぬ、この點からいふと「もしもし龜よ」の如きお伽噺の歌はあまりよろしくない、何故ならばお伽噺の歌だと子供がその内容を熟知して居り、歌の文句に氣を取られて了ふために、音階の狂ふことに少しも氣が附かないやうになるからである。子供に唱はせる唱歌は子供に分り易い音階から成立つて居り、旋律ふし自身の面白いものでなければならぬ。一體音樂といふものゝ要素は音階であつて内容ではないのである。

## 内 容

音樂が何をあらはしてゐるか、こんなことを考へるやうになるのは餘程人智が進んでからである。歌の文句に依つて或る事件を人に物語るといつたやうなもの、例へば日本の義太夫の如きものは文學が主であつて、音樂は寧ろ従の地位にあるのである。音樂といふものは言葉に附屬してゐる内は發達するものではない。形式音樂といふものは六ヶ敷く、教養のあるものでなければ理解することが困難である。鎌倉時代以後の日本音樂は内容音樂であつたために、純粹の音樂としては大した進歩がなかつた、しかし後になると謠曲うたひが起つて、やゝ形式を備へるに至つた。けれども謠曲うたひの聲は東夷あづまびすの聲である、あまり感心の出來る聲ではない。女が謠をうなるなどは以ての外である。日本音樂をして純音樂ならしめ、世界的ならしめる爲めには西洋音樂の様式に則るか、さもなくば我國

の平安朝時代の音楽を復活せしめ、之を十分に研究して、發達せしめるより外に方法はないのである。以上は音楽に言葉の内容とした場合に就てお話ししたのである。

内容音楽には尙自然の音を真似るものがある。その中で一番下等なものは模寫音楽である。これは自然の音を少しも變へずにそのまま、真似やうと努めるものである、これは音楽の極めて幼稚なるものである。自然の音といふものはそんなに美しいものではない、うぐひすの聲と雖も、音楽には劣るのである、この模寫音楽は主に亞米利加なぞに流行するのである、亞米利加人はお金を儲けて他國から上手な音楽者を聘することが出来るので自分からあまり研究しやうとしない、従つて音楽はあまり發達してゐないのである、それが爲めに幼稚な模寫音楽なぞを喜び、自動車の音や飛行機の音を真似て悦に入つて居るのである。尤も模寫音楽をわるいと言ふのではない。音楽的要素の甚

だ尠いものではあるが模寫音楽も亦音楽と言ひ得ないことはないのである、團十郎も役者であり、「申上げます」をいふ無名の役者も役者であるといつたやうなわけである、私はこの意味で模寫音楽の存在を否定しはしない。否、音楽の入門としては或は模寫音楽なぞは大いに適當なものであるかも知れないのである。浪花節なして野卑だから撲滅して了へとあせる必要はない、浪花節を入門として音楽に入つて來る人もあり得るとするならば浪花節も一の方便である。浪花節をさう何時までも有難つてゐる人もないであらう、こんな音楽的要素の尠いものには直きに飽きが來て、今度は長唄をやらうなぞといふ風になり、漸々と發達して行くものなのである、何時まで經つても、浪花節が面白いなぞと言つてゐるのは、何うかしてゐるので、音楽的低能とでも名くべき人である。模寫音楽の例として「黒い森」といふのを蓄音機でやつてみやう。これは森の中の狩獵をあらはしたも

のである、鐘の音、馬蹄の音、鳥の聲、ホルンの響、獵犬の鳴聲等を巧みに組み合せたもので、これを聞いてゐると、丁度活動寫眞でも見て居るやうに、狩獵の様子があり／＼と想像されるのである。

この「黒い森」の如きは、たゞ自然の音を描寫したのみである、従つて音樂としては程度の低いものであつて、先づ遊戯と看做されても止むを得ないものなのである。この單なる自然の模寫が一歩進むと詩的描寫といふことになる、これは想像の餘地を残して、自然を描寫するので、同じ雀の聲を表すにしても、雀の聲そのまゝを表さずに、これを音樂的に變化して表すのである。すべて自然をあるがまゝに表さずに音樂的變化を試み、氣分を以てこれを表すやうに努めるのがこの詩的描寫の特徴である。ロシニー作の歌劇「ウイリアム、テル」の序曲中にある「暴風」「うらゝか」と題するもの、如きは、この詩的描寫の例であつて、前者は

最初暴風雨が荒れまわつて居るが、やがてしづまつて、空が霽れ、日の光が照りわたるといふ經過を氣分で描寫してある、後者は暖かいやうな、うらゝかな心持があらはれ、時々鶯の聲も聞える、しかしこれは音樂的に變化されてゐて、氣分氣持といふもので表されて居る。

單なる自然の描寫を尋常科とし、詩的描寫を高等科とするならば、もう少し理性が發達して來て中學程度となつたものは標題音樂である。標題音樂の例として露西亞のチャイコフスキー作の「一八二二年」といふ曲の説明をしてみやう。これは極めて興味のある曲で、宛然歴史を讀むやうな感じを與へるのである。「一八二二年」といふのはナポレオンが露國に遠征して、モスクワで雪に降り籠められ、終に脆くも露軍のために打敗られて潰走する纏末をあらはした音樂である。かゝる複雑な内容が何ういふ風に取扱はれてゐるかといふと始め佛國々歌を繰返して、後のを前のよりも旺ん

に演奏する。

それで佛國の國力の膨脹して行つたことを現すやがて國歌が駈け足で奏される、これは軍隊が露國へ向つてドン／＼出動するところである、やがて雪が降つて来る。これも音が降つて来て、音が積るのである、やがて戦が始まる、これは佛國々歌と露國々歌との混合によつて表される、佛國々歌が漸々勢ひを失つて来る。露國々歌がそれと反對に明瞭になつて来る、即ち佛軍が敗北し始めたのである、やがて佛國々歌がバラ／＼なものになつて了ふ、露國々歌がもう一度明瞭に奏される、これで佛軍が潰走して、露軍が勝利を得たことになるといふやうな調子に出來上つて居るのが標題音樂である。

## 作曲

琴の「六段」には意味がない、これを聞いてゐても何の意味かさつぱり分らない、しかし何となく

面白い、これは形式を味つて居るのである。全然内容を離れて、形式を味ふといふことは音樂、以外の他の藝術には稀である。形式は作曲法に依つて出來て居るのである。

作曲法は音樂の方でも却々重要な問題で、而かもこれが分らなければ西洋音樂は半分は分らないのである。

日本にも作曲法といふものはある、長唄には長唄の作曲法があるのであるが、これは未だ組織的に研究せられて居ないので、非常に煩雜である。

歐羅巴の音樂には二種の作曲法がある。その一つはコントラストである、これは譯せば對比といふのであるが、今日ではコントラストといふ言葉は日本語化されて居るからコントラストの方が反つて分りがよいと思ふ、コントラストとは或る物を示し次で之に反對の性質の他のものを示す方法である。シヨパンの送葬進行曲フニヒラルマーチはこの作曲法の一例である。

初めは殘された人々の悲哀をあらはす爲めに、非常に低い物哀しい短音階のくさりがあり、次いで死んだ人の天上する喜びをあらはすために、旺んな明るい長音階のくさりが續く、そこでコントラストが出来るわけである、斯くてシヨバンの送葬曲は、一高一低、送葬曲として頗る要領を得たものを形づくつて居るのである。(蓄音機)

送葬進行曲には有名なものが三つある、ベートーベンの作曲とハイドンの作曲とシヨバンの作曲とが之である、この中最後のシヨバンのが一番よく用ゐられてゐる。シヨバンは波蘭土に生れた佛蘭西人でマヅルカを佛蘭西に輸入したピアノストである(一八一〇—一八四九)

世界中で俗謡の面白いのは伊太利と露西亞である。露西亞の俗謡にはコントラストが實によく應用せられてゐる。「コサツクの守唄」などは實に立派な音樂である。(蓄音機)、何ういふわけで露西亞に斯る立派な俗謡があるかといふに、これは宗教のお蔭である、といふのは露國の國教は希臘教である、希臘教ではオルガンを用ゐずに聲ばかりで聖歌を唱へるのである、つまりユダヤから東羅馬

(希臘)に入つた宗教音樂が佛蘭西や伊太利に行かずに露西亞に行つて了つたのである、乃で露西亞の宗教音樂は非常に優れたものとなつた、而してこの宗教音樂の影響を受けた俗謡も亦優れたものとなつたのである。従つて露西亞には優れた音樂家が尠くない、ルービンスタイン(一八二九—一八九四)などはふうわりとした奇麗な曲を作つたのである。

作曲法のもう一つの形式といふのは變形であるこれは規則に従つて、旋律を漸々に變化させて行く方法である、つまり日本音樂に云ふところの本手、替へ手のことである。尤も日本では本手、替へ手を同時に行つて了ふが、變形といふのは同時に行ふのではない、三味線樂などでは本調子と同時これよりも高い上調子が入るのであるが、變形といふのはつまり本調子がくさりあつて、その次ぎに上調子が始まるといふやうなわけなのである。ハイドンのシンフォニーの中に「サーブ

「マイズ、シンフォニー」を名けられるものがある。これは急に際立つた變形をするので、聽者がびっくりするのでサーブテイズ(驚愕)といふのである(蓄音機)

以上が大體説明したところのコントラストと變形とが形式の根本である、即ち作曲法の土臺となるのである。

作曲法の内一番六ヶ敷いのがシンフォニーとソナタである。シンフォニーとソナタとは同じであるが、たゞその異なる點はソナタが一二の獨奏樂器の曲なるに反して、シンフォニーは管絃樂器の曲であることである。

シンフォニーを分り易く説明するために、シンフォニーを算術の問題と見て説明すると、先づ第一に問題が次る、これは二つ出るので、第一の問題が出、次ぎにそのコントラストが問題となつて出るのである、次ぎにこの二つの問題を計算する最後に最初の問題を二度繰返して、そのシンフォニーは終るのである。

以上が音樂の組織に關するお話である、これか

ら西洋音樂の發達のお話を極くざつと申上げてこの講演を終る。

## 發 達

音樂史の方では、紀元千年以前をば上古時代といふ。この上古時代を分けて希臘音樂時代と羅馬音樂時代との二つとする。希臘では内容を主として、形式は未だ現れなかつた。我國の奈良朝時代も内容が主で形式はなかつたのである、羅馬では形式音樂が行はれた、併したゞ聲の上げ下げがあつたゞけである、我國の平安朝時代もさうである希臘音樂の例としてはデルフォイから發掘された「アポロの歌」の音譜(二千五百年ばかり前のもの)に依つて之を窺ふことが出来る。(蓄音機)羅馬音樂の例としてはグレゴリー法皇の選んだ「グレゴリアン・シャント」といふのがある、これは千五百年ばかり前のものである、ハレルヤを上げたり下げたりして幾度もうたつてゐるだけで、甚だおもしろくないものである。(蓄音機)。紀元八百十四年に作られたチャーレマン大帝葬送の歌がある、これも一本調子で甚だ振はないものである。(蓄音機)

要するに上古時代の音楽はあまり太したものはなかつたのである。紀元千年頃になるとチューレン人種が複音の音楽を作つた（蓄音機）併し始めの頃の作はどれもあまり感心の出来るものではない、十一世紀頃になると幾らかいゝのが出来るやうになつた、複音の音楽は佛蘭西の北部を過ぎて、英吉利に入つた、この頃から複音の音楽は非常に發達した、この發達の主動者となつてゐたのは、言ふまでもなくチューレン人種で、十六世紀頃まで音楽史上樞要な地位を占めて居た、これをネーデルランド派といふのである。これは和聲の方面であるが、旋律の方面に就ていふならば、この方面は俗謠の影響を受けて發達して來てゐる。十七世紀の初頃までは音楽といへば全く宗教會の事業であつたのであるが、一般俗社會にも音楽がなかつたわけではない、その旋律は不幸にして今日に傳はるものがないけれども、當時の文獻に徴して、これのあつたことは確かで、是等の旋律は屢々上述の和聲家に好箇の旋律を供給したのである殊に注目すべきは十二世紀より十四世紀にわたり

詩歌界の新機運と共に盛況を呈した俗謠の流行である。この時代は十字軍時代で、佛蘭西、獨逸あたりの武士が盛んに俗謠を作つたのである。即ち佛蘭西に於てはプロヴァンス地方にトルバゾールの歌、獨逸に於てはミンネ歌人の歌がこれであるトルバゾールの歌は澤山あるが、その中で「シャレン・ド・クーン」や「アダム・ド・ラ・アール」等が最も有名である。（クーンを蓄音機にて演奏す）十五世紀頃になると俗樂が漸次宗教樂に近づき、宗教樂も俗樂に近づいて、兩者のけじめがあまり著しくなくなつた。ネーデルランド派の後に伊太利にラテン人種の音楽が起つた、これが文藝復興期で、それから近世に入ることになるのである。中世千年間のあひだで一番偉い音楽者は中世の末に出たネーデルランド派のオルランツス・ラツススである。ネーデルランド派は彼に依つて大成され、その樂風は歐羅巴に至る所にひろまり、それに依つて獨逸、伊太利は共に光輝ある國民樂を創始した。彼の音楽は流暢な旋律に富み、豊麗勇壯な和聲を存してゐた、彼は歐羅巴の諸王より「音楽の王」と

稱された。

ラッススから五十年ばかり経つと文藝復興の運動が始まつたのである、そしてこの影響を受けた音楽は大變その趣きを變へるやうになつた。

中世は神様の夢をみて居た時代であつて、その音楽も亦夢の音楽である、文藝復興以後はこの夢から醒めて人々が皆現實の土臺の上に立つやうになつた。文藝復興以後に出た音楽家は縁の下の力持ちをしてゐたやうなもので、あまり顯はれては居らぬ。

十八世紀になるとバハ(一六八五—一七五〇)とヘンデル(一六八五—一七五九)の二人が出て近代音楽の基礎を作つた。しかしこの二人は未だ中世の影響から脱し切つてはゐなかつた。それからハイドン(一七三二—一八〇九)が出るのであるが、彼になるともう中世の影響はない、ハイドンの次ぎがモツアルト(一七五六—一七九一)それからベートーベン(一七七〇—一八二七)といふ順になるのである。

モツアルトはハイドンと同時代で、モツアルトが二十歳頃にハイドンはもう七十歳位の老人であ

つた。モツアルトは生れながらの音楽者で、二歳の頃、抱かれてピアノ臺にやつとつかまることが出来ると時分彼がピアノの鍵盤の上に手を觸れるとちやんと、立派な曲になつてゐたといふことである、而して五歳の時分にはもう世界第一流の作曲家となつて了つた、彼のオペラは皆彼が小學校時代に作つたものである、彼の傑作は大抵十代の頃に作られたものである。而して三十歳ばかりで早世して了つた。この偉い二人に仕込まれたのがベートーベンである、ベートーベンは元來感情家であつて、音楽家としての資質を備へてゐた、それがハイドンの弟子となつて、作曲法を教はりモツアルトから天才奔放の氣を受けて、立派な音楽者となり得たのである、ベートーベンは世界の音楽者の内で富士山にも譬へらるべき、完成される音楽者である。ドビュッシーの音楽がいゝの何のといつても、それは富士山に較べては妙義山が面白いといふやうなものである。

ベートーベンに至つて始めて形式と表情とが一致するやうになつた。ベートーベン以後はこの二

つが却てうまく揃はないので、形式の方はかまわずに表情だけがうまく出来てゐればよい、ことにした、これが十九世紀のローマンチック派の音楽である。

ローマンチック派の音楽者にはメンデルゾーン、ショパン、シューマンなどがある。

シューマンは餘程感情家で、不仕合せ人である始め音楽者にならうとした時両親が不承知なために十分な學費を得ることが出来ず、新聞記者になつて自活しながら音楽の研究を續けたりなぞした一時は絶望してライン河へ投身したが、救助されて目的を果たすことが出来なかつた、終ひには氣違ひになつて、癲狂院に送られ遂にそこで歿したのである。

違ひになつて、癲狂院に送られ、遂にそこで歿しローマンチック派に二派がある、獨逸派と佛蘭西派とがこれである。

西洋音楽は十九世紀になると、やゝ行き詰つた感じがある。それで二十世紀に入つてからは、無暗と變つたもの、珍らしいものを求めるやうになつて、手を換へ品を換へて何か珍奇なものはないかと探しまわつてゐたのである。それで瑞典や諾威やフィンランドの音楽に目をつけて、これを一

時擔ぎあげやうとした。アメリカインディアンの間に行はれてゐる音楽を變化した「新世界のシンフォニー」などといふ曲も一時持囃されたが、それもしばらくの間で、やがてズホール・サクスのものやうに非常に六ヶ敷い、といふよりはわけの分らない音楽が行はれ出した、これは丁度繪畫の方の立體派等に相當するもので、獨創性に富みすぎて、大いに譯の分らぬ曲を作り出すやうになつたのである。諾威のグリーグなども盛んにこの譯の分らぬ曲を作つたのである。

藝術の方面から見ると、歐羅巴の文明は今度の大戰争の始まる前に、既に大いに畸形を呈するに至つたのである。一面から言へば歐羅巴の文明が大いに畸形になつた爲めに、今度のやうな大戰争が起つたのであるとも觀察することが出来るのである。吾々はこの大戰争の淨火に依つて、歐羅巴の文明がこれまでの類廢から救はれて生氣のあるものとなるであらうことを信じたいと思ふのである。(文責在記者)

# の一本目 年幼本目

□倉橋惣三先生監修

本誌は、三歳から拾歳までの子供の爲め美しい繪と、面白い噺とを、教育的に組み合せた他に比類なき繪雜誌です。殊に毎號教育的な手技附録を添へます。

本誌は 玩具とお噺しとの興味及び教育的價値を兼ねあはせたるもの、子供には何よりも喜ばれ、何よりもよき友達となる。

定價

壹冊拾二錢 □半年 郵税共七拾五錢  
 郵税壹錢 □壹年 同壹圓四拾四錢

御大典記念畫報 婦人畫報  
 皇族畫報 少女畫報  
 日本幼年

發行所

東京京橋鍛冶橋外  
 振替東京四九〇〇

東京社

羽仁ともと子主幹

# 子供之友

本誌は十分教育的に編輯された子供雑誌で御座います。記事も挿畫も子供の喜ぶものばかりです。楽しんで讀む間に、頭腦をよくし感情を高尙にし、善良なる習慣を愛するやうになります。『子供之友』には、一つの非教育的なる挿畫も、一行の不注意なる文章もありません。『子供之友』は、家庭教育の最も有力なる補助機關であります。幼稚園及び小學校時代の御子様方のために、熱心によき讀物を求めて居らるる御家庭におすゝめ致します。

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可(毎月一回一日發行)  
 婦人と子ども 第十七卷第六號  
 大正六年六月三日發行

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場

定冊價 十一分半 郵税 十錢 婦人之人友社 東振替 京一六〇 雜司 谷番